



上遠野 秀忠 かどの ひでただ

生まれた場所：横手市
生まれた年：1854年
なくなった年：1933年

秋田県に剣道を広め、指導に力を尽くした武道家

上遠野秀忠は、今から150年以上前の1854年、横手市に生まれました。小さなころは馬之助と言いました。

家は時習堂という道場で、剣術（剣を使った武道）と槍術（槍を使った武道）を教えていました。お父さんが、新天流第11世師範（武道の先生）で、秀忠も小さなころからけいこにはげみました。また、習字などの勉強もがんばったそうです。

秀忠は、お父さんから剣術や槍術を学ぶだけでなく、他の武術も進んで学びました。それぞれに先生をもとめ、弓術・馬術・居合術・砲術・柔術を身につけたそうです。

きびしいしゅぎょうのかいがあって、秀忠は19歳のとき、新天流第12世師範となりました。そして、県内各地を武者修行（武道で強い人をもとめ、教えてもらったり、勝負をして修行すること）して回りました。

さらにもっと強い人と出会ってみたいという気持ちのあった秀忠は、29歳のとき、東京に向かいました。当時、剣聖（剣の神様のような人）と呼ばれていた、直心影流の榊原鍵吉に入門したのです。そして、1年後には、榊原の道場の塾頭（道場をまとめる役）に選ばれ、いよいよ全国へと武者修行に出ることにしました。

秀忠は、強い相手をもとめて、一日も休まずに全国を渡り歩きました。そして剣道の手合わせ（しあいのこと）をしながら、腕をあげていきました。

同じ年、秀忠は秋田県御用掛となり、横手警察署で剣道を教える先生となります。そして県内のいろいろなところで、剣道を教え、広めることに力を入れました。警察署だけでなく、学校などでも教えたそうです。

50歳のとき、秀忠は、岩手県警察の剣道の先生となりました。このとき、長年考えていた剣道の教え方をまとめ、世の中に公開しました。これは、のちに学校で剣道を教えるときに、さんこうになったと言われています。秀忠の行った仕事の中でも大きな仕事の一つです。

53歳のとき、秀忠は秋田県警察の剣道の先生となり、同時に秋田中学校（今の秋田県立秋田高校）、秋田工業高校（今の秋田県立秋田工業高校）、秋田県師範学校でも剣道を教えました。秀忠は、秋田県の剣道界に多くの弟子を育て、剣道がさかんに行われる大きな力となったのです。

71歳のとき、秀忠は、武道の全国的な団体である大日本武徳会から、槍術の範士、72歳のときには剣道の範士の称号を受けました。「範士」というのは、武道の技と心、すべてをかねそなえた人だけが受けられる、めいよあるものです。秀忠は、槍術、剣道の両方でそれを受けましたが、それは日本ではじめてのことでした。

秋田県に剣道を広めた秀忠は、79歳で亡くなりました。そのすばらしさをたたえて、秋田市の秋田県スポーツ会館前には、秀忠をしのぶ碑が立てられています。